W校中高等部だより

球技大会特集

平成二十七(二〇一五)六月二〇日
ニューヨーク補習授業校W校



朝の雨が嘘のように晴れ上がり、今年度もW校中高等部の球技大会が五月十六日に盛大に行われました。中止予定のサッカーも行われることとなり、球技大会に参加した中高等部の生徒たちは、さわやかな汗を流しました。

生徒たちは、クラスごとに色を決めたTシャツに、各クラスで考えた独特のデコレーションを施し、大会気分を盛り上げました。男女混合縦割り八チームに別れ、バスケットボール・バレーボール・ドッジボール・サッカーと予定通り四競技を行い、最後は紅白に分かれての全員参加の大ドッジボール大会も行いました。自分の得意な種目だけでなく、各種目、生徒たちは盛り上がって楽しみました。

前の週からチームごとに昼食をとったり、チームワークを高める活動(チームメンバー名ゲーム、チーム名ゲーム、バスケの作戦タイムなど)をしたりしてきたことで、グループ同士の顔や名前を覚え、高等部のリーダーを中心にまとまったチームができました。生徒たちが汗をかきながら得たものは、学年やクラスを超えた友情・団結・協力・相互理解。生徒たちにとって、この球技大会は補習校ならではの思い出作りの場となりました。

競技に参加した生徒一人ひとりの活躍する姿、下級生を思いやり、チームを上手く牽引する高等部のリーダーの姿は、ボランティアとして参加した保護者の目にも頼もしく映ったようです。普段の授業日には見られない新しい姿をたくさん見ることができました。



総合成績

一位：Aチーム

二位：Cチーム

三位：Bチーム

競技ボランティアの皆さん

卒業生　安部さん、木原君、滝田君、アギスキーさん、立石君

競技ボランティアを卒業生にお願いしました。卒業生たちは、この球技大会の準備のために来校し、ジムのバレーコート、バスケットコートのラインテープ貼り、ネット設営などの準備に献身的に取り組みました。また、今年度は、高等部一年生も会場設営を卒業生のボランティアと協力して行いました。大会運営のため、準備から進行、後片付けまで、影でこの大会を支えてくれた保護者会ボランティアさんたちにも感謝です。

初めての球技大会

中等部一年　是永　陸

ダムダムダム、今体育館の中で聞こえるのはボールの音だけだ。今ぼくはチームといっしょにドッチボールをしている。今日は中学に入ってずっと待っていた球技大会だった。

「ピー」

笛の音が鳴った。3対3で引き分けだ。もうちょっとだったのに。だけど球技大会はまだ始まったばかりだから大丈夫だ。

僕は次の試合に向かって歩く。次はバレーボールだ。サーブになった時、僕はできるだけ強く打つ。あっまたネットだ。僕は二回目を打つ。あっまた。相手のサーブになってしまった。だけど優しいせんぱいたちがドンマイと言ってくれた。よしがんばろう、と僕は勇気を出した。そのあと僕たちのチームワークがよくてそのバレーボールの試合は勝てた。



「ようし、がんばるぞ」

僕は叫ぶ。

僕たちはサッカー場に行く。サッカーは苦手だけどみんなといっしょにいると楽しくなってがんばった。そのおかげで勝てたのだ。ぼくはそのとき本当にうれしかった。

このままバスケットボールも勝とう。ぼくはそう叫ばなかったがみんなはぼくを見るだけでわかっていた。みんなもそうだった。僕たちはその時本当のチームだった。

バスケットボールはパスとフェイクばかりしていたがそれもチームが勝てた原因なのかもしれない。もし一人がそこでシュートをしなかったら勝てなかったかもしれない。どんなにパスが下手でもそれができてなかったら負けていたのかもしれない。だからチーム一人一人はみんな同じくらい大事だと思う。

初めての球技大会で、どんなにスポーツが下手なひとでも一人一人大事だとわかった。このような楽しい運動行事は初めてです。高校生で一回も話したことのない人とまで一緒に話せた。友達みたいにもなれた。来年もこのような楽しい球技大会がしたい。

“来年がんばるぞ〜”　僕はそう思った。

球技大会

中等部一年　豊村　真帆

先週は補習校の中高等部球技大会でした。バレーボール、ドッヂボール、バスケットボール、サッカーの四つの球技をやりました。朝は雨がどしゃぶりだったのでサッカーは中止だと思っていたのですが、思いの他昼ごろには晴れ、サッカーも行う事になりました。昼食はチームで食べました。最初は静かで気まずかったのですが、終わりごろになるとリーダーが全員を作戦会議に集め、自己紹介から話し合いをしました。

さて、昼食の後はいよいよ本番です。全員で準備体操をしたあと、チームで最初の試合に行きました。私のチームはバレーボールで、配置場所を決めたら試合開始。なんと私が最初のサーバーでした。いつも学校で使っている小さいかたいボールとはちがったので、いつものカでサーブやレシーブをすると、使用する大きいやわらかいボールは向うのかべまで飛んで行ってしまいます。力加減をしながらサーブして、私はまず一点を取る事ができました。試合は前半でリードしていたのですが、後半で巻き返されてしまい負けてしまいました。次の試合に行く間、コミュニケーションを取るようにとお互いに言い合いました。

そして次はドッヂボール。ボールを猛スピードで投げられない私にとっては天敵です。男子のおかげで相手チームに当てることはできたものの、中にいた私たちは逃げるのが背一杯。2対0で全敗。

しかし、バスケットボールはなかなか良い試合でした。ここもやはり男子のおかげで点を取ることができました。両チームの男子はとても荒々しくプレイをしていたので、女子はアシストしかできませんでした。同点で試合は終わり、相手チームにいた友達をマークで疲れさせた私は達成感でいっぱいでした。

しかし、最後はサッカーという、なんとも最悪な巡り合わせ。もう三つの試合で体力がけずられていた私たちにとって、外に出て走り回るサッカーはまさに体

力の限界との戦いでした。しかも、チーム最大戦力の男子が体力残りわずかのまま試合は始まりました。私は負けるくらいならと積極的にボールを取りに行きました。ボールを頭と足にぶつけられ、ボールをうばわれながらも、ギリギリで勝つことができました。

やはり一位にはなれませんでしたが、アイスがもらえて結果オーライとなりました。先輩達と交流できたのも良かったです。体力はけずられ、おそらく筋肉痛になるだろうけど、来年の大会が楽しみです。

球技大会を終えて

中等部一年　吉本　真凜子

今日は、朝からかなりの雨が降っていて、球技大会がちゃんと行われるのかな、と思いました。そして、偶然にもニューヨーク補習校に行く、最初の日でした。

午前中は、国語と数学の授業で、競技のサッカーは雨天のため、中止ということでした。

午後になり、家から持参したお弁当を、球技大会のチーム（Ｃチーム）で、作戦を立てながら、食べました。その頃には晴れて、サッカーも決行になりました。お腹もいっぱいになったところで、待ちに待った球技大会が始まりました。私たちＣチームのゲームはドッチボール、バレーボール、サッカー、バスケットボール、という順番です。

特に楽しかったのは、バレーボール。一人プレーができないので、協力することが大切になってくる競技です。サーブは、想像以上に上手くいきませんでした。でも、それも含めて、一番楽しかったのはバレーボールでした。私たちのチームは、まとまっていることが取り柄だったので、一番都合のよい競技だったと思います。

一回戦目、コートの位置にバスケットゴールが、あったこともあったのですが、少しの差で負けてしまいました。

次こそ絶対勝って3位以内に入るぞ、と意気込んで臨んだ二回戦。チームの中で声を掛け合って、自分たちの流れを掴んだとき、私たちは、点を沢山入れることに、成功しました。結果は、大差をつけて、見事勝利。

バスケットボールも、仲良くなったところで、勝利。結局ドッチボールは引き分けで、それ以外は勝利を収めることができました。総合二位も勝ちとったのです。

今日の球技大会で、クラスに少し馴染むこともできたし、楽しい思い出になりました。これからも、今日学んだ、協力することの大切さを意識しながら、楽しい土曜日に、なるようにしたいと思います。



球技大会の感想

中等部二年　保山　健人

昨日、補習校では球技大会が行われました。この日、ぼくは校長先生が仰っていたように、皆が力を合わせて他のチームと競う魅力を感じる事が出来ました。

普段は見られない、力を合わせるコンビネーションも見ました。

いつも授業中ではすごく静かにしている人が、本来の自分の姿を見せてくれました。

高校二年生の方が、中学一年生の生徒と一緒にパスしあってスポーツに励む様子など、普段とは違う姿を見る事が出来て、すごく良い経験ができたと思います。

誰かが何かミスをしてしまっても、チームのメンバーが怒らずに、やり方やアドバイス、良い所や悪い所を優しく教えてあげていました。ぼくはそれを見て、素晴らしいと思いました。

みんなを励ましていくうちに友達ができたり、ミスをした人を元気付けたりする事を、スポーツを通して実践していることに、ぼくが素晴らしく感動しました。

チームが勝つ事だけではなく、全員のきずなを強めていけるので、球技大会は楽しいだけではなく、人生にも役立ちます。これからも続けていけるといいなと思います。

球技大会のおもしろさ

中等部二年　川上咲貴

私は球技大会の事を深く考えたことはなかったです。ただ五時間目と六時間目の授業がないのでラッキーと思ったくらいでした。でも今まで面識のなかった人達と一緒のグループになって、チームとして楽しく戦ったら、球技大会は自分が思ったより、もっと大切な事だと思いました。

去年の球技大会の記憶はぼんやりしていましたが、今年のチームの方が去年より賑やかなグループだったのはわかりました。去年は緊張していたので私は喋らなかったのですが、今年は普通の友人のようにベラベラ喋りました。そのお陰で昼食の時に、後輩から卵の寿司をもらいました。会った事もない人や校内で見かけたことはあっても、しゃべった事もない人達と親しくなるとは思いもしませんでした。それってよく考えてみると面白い事だと思います！

私はスポーツは大の苦手です。バレーボールをやっているので、遊ぶと楽しいし、ドッジボールも普通に楽しいですが、サッカーとバスケットボールは遊ぶという言葉が入らないぐらい恐ろしくて嫌いです……本当に。だが**なぜか**球技大会になると、その二つのスポーツで私は汗をかくほど一生懸命競技し、精一杯応援する事になりました。いつもの自分より3倍レベルアップできました。球技大会は思っていたより、ずっと楽しい時間を過ごせました。

最後に思ったことは天気のことです。球技大会の朝、雨がかなり強く降っていました。そのせいでサッカーはできなくなると言っていました。皆さんは悲しくて、やむようにと熱心でした。そして三時間目になると雨は少しずつやんできました。大会の時間になるとサッカーはできることになり、校長先生が私達の「意志」のお陰で雨がやんだ、とおっしゃいました。でも、それは本当なのかなって、つい思ってしまいました。それがおもしろいのです。どんな変なことでも真剣に考えると笑っちゃいませんか？

この行事をなんとも思っていなかった私ですが、大切な記憶になりました。もっとまたみんなと一緒に遊びたいなと強く思いました。結果は、私達のチームが二位に入りました。本当に不思議で面白いですよ。





球技大会

等部二年　ランポート　ハナ

球技大会ではDチームでしたが、赤チームに入っていたので勝ちました。私が勝ったのは、サッカーだけでしたが、とても楽しかったです。

私たちは最初にバレーボールをしました。私は普段はボールのゲームが苦手です。いつもバレエをおどっているので、あまりしたことがないのです。それでも私はがんばりました。結局負けましたが、いいサーブやセーブをできました。失敗をしても、チームにいる人たちが、

「ドンマイ！」

と言って、はげましてくれました。これで楽しくゲームができました。

次のドッジボールも負けました。でも、私はとにかくにげることができたので、長いこと残ることができました。先ぱいや友達が、できるだけ助けてくれたおかげです。

その後のバスケは一番苦手でした。何回もボールが頭に当たったので、バスケのボールがこわくなりました。それでもちゃんとパスして同点になったので良くできたと思いました。

最後に好きなサッカーをやりました。何年も前に少しやっていたので、まあまあ上手にできました。最初の方はディフェンスをしていたけど、前の方にも行きました。フィールドが短かかったので、行ったり来たりを速くできました。サッカーで勝てたので、とてもうれしかったです。

最後に赤チームが勝ったので良かったです。いっぱい楽しいことをしたので、すごくいい日でした。来年の球技大会がとても待ち遠しいです。

球技大会で勝つためには

中等部三年　細野露可

先週の授業参観の懇談会の間に、球技大会の種目のドッジボール、サッカー、バレーボールを短い時間でしたが練習しました。1週間で、「みんなが、あまりうまくないスポーツも努力する。」それが球技大会で勝つ上で、一番越えなければならない高い壁なのです。

僕たちのチームにも、得意なスポーツと、それほどうまくないスポーツがあり、それぞれ努力しなければならないところがありました。不思議なことに、みんなで少し練習しただけで、とても早く上手になっていくのです。僕自身は、今年、最初は勝つより楽しんでいきたいと思っていたのですが、他の皆の頑張る姿を見ているうちに、「やっぱり勝ちたい」と力がわいてきました。

一週間経って翌週の土曜日、5月16日が、いよいよ本番の球技大会でした。学校の大会といっても、弱肉強食の世界です。成功するには、「勝つ心」と、「楽しむ心」を両立しながら、勝ち進まないといけません。　今年は、雨天でサッカーが中止になりそうだったので、残念に思っていたのですが、途中で奇跡的に雨が上がり、サッカーも外で競技が出来たので、みんなで喜びました。バスケット、ドッジボール、バレーボールの4種目になり、思いっきりスポーツに集中出来ることになりました。他のクラスメイトも同じ気持ちだと感じましたが、この大会で全力を尽くしていきたいと精一杯頑張りました。

球技大会のスポーツは、「楽しいてっぺんまでの競争」といっても良いかもしれません。みんなも、勝ちたい気持ちで心を強くしながらも、リラックスして楽しんでプレイしていたようでした。

球技大会は、「チームワーク」を大事にして、チーム一丸となって正々堂々と闘うのが、一番大切なことだと思いました。「チームのみんなにやる気を与え、そしてそれを援護する。」そういうことができる自分自身になりたいものです。

補習校での最初の球技大会

中等部三年　宮部　航一

今日は、球技大会がありました。初めの頃僕は、

「補習校でも球技大会するの？」

というような気持ちでいました。その理由は、球技大会は、補習校ではなく現地校やその他の学校でやるものだと思っていたためです。又、以前通っていたイギリスの補習校では、その様な行事を行わなかったので球技大会を行うと聞いた時は、話している内容についていけませんでした。

そして数日が経つと、「―シャツを作ると聞いたのでまた僕は、話についていけなくなりました。それから僕たちは「―シャツのデザインを考えて本書きを終え、無事に球技大会を迎えることができました。

この球技大会の種目は、ドッチボール、バレーボール、サッカー、バスケットボールの四つでした。個人的にどれが一番できるのかと聞かれたら、

「バスケットボールです。」

と答える他ありませんでしたが、小学校の休み時間にドッチボールをしたおかげなのか、思いの外ドッチボールができてよかったです。又、バレーボールは初めてだったので、ルールも知らないし、どうするかも分からないのであまり面白くないだろうと思っていました。しかし、やってみるとさっきまで「あまり面白くないだろう。」と思っていたのが不思議なくらい楽しく、おまけに勝てたので良い思い出になりました。

はじめは球技大会があることにびっくりし、「めんどくさい」とさえ思っていましたが、終わってみたらとても楽しかったです。今年は、準優勝で終わりましたが、来年も球技大会があったら次は優勝目指して頑張りたいです。

何かが芽生えた球技大会

中等部三年　山田桃子

私は、今回のこのイベントを通じて、とても大切なものを得り、学びました。

一つ目は「団結」です。球技大会が始まる前のランチタイムでは、みんなが人見知りのせいか、静かに黙って弁当を口にし、一部ではコソコソと二人でしゃべっているなどと、チームの「団結力」がまるでない様でした。しかし、球技大会が始まり、チームのみんなが盛り上がってくると同時に、チームメイト同士での会話も徐々に増えていきました。球技大会の終盤に差し掛かると、ゲームの勝ち負けは関係なしに、みんなで支えあってゲームに参加することができました。この様なコミュニケーションは、このチーム、メンバーだったからこそ実現できたのだと思いました。



二つ目は「友情」です。私のチームメンバーは、もしもこのイベントがなかったら、絶対に喋ったり、関わったりすることがなかった人たちの集まりでした。メンバー全員が違う性格、趣味をそれぞれ持っていて、とても個性的なチームでした。そこで、私はこのチームの「友情」とは何だろうかと考えてみました。そして導き出した答えは、「ありのまま」でした。なぜなら、今回のこのイベントでそれぞれが「ありのまま」の自分を出した結果、何等かの「友情」が芽生えたからです。

私は今回の球技大会を通じて、とてもいろいろなことを学

ぶことが出来ました。普段の補習校での生活は、それぞれの学年同士で勉強をし、弁当を食べ、そして語り合うというのが一年の中での大半です。しかし、このような楽しくて、かつ、学ぶことが出来る行事があるのは補習校ならではだな、と改めて感じました。私はこれらの貴重な体験をどこかで生かすことができればいいなと思いました。



僕の人生で初の球技大会

高等部一年　鹿内　颯太

僕は球技大会というものに参加するのは初めてでした。僕は去年の八月にアメリカに引っ越してきたので補習校の球技大会は体験したことがなく、日本に住んでいた時も一度もやったことはありませんでした。なので、僕は新鮮な気持ちでとても楽しみでしたがその反面、不安なこともいくつかありました。

そんな中で僕は球技大会の当日を向かえることになりました。そうしたらいきなりチーム変更という悲惨なことにあいました。さらに、チームリーダーのはずの高二の先輩が遅れての参加だったので、高一のまだまだ未熟な僕がチームリーダーを任されることになりました。僕としては初めての球技大会でチームリーダーを任され戸惑いが隠せませんでした。しかし逆に「やってやろう」という気持ちも少し自分の中では芽生えていました。僕は普段からダラダラしているため、あまり運動ができないと思われていることが多々ありました。しかしながら、僕は日本にいた時はサッカーで都大会まで進出したり、現在は陸上をやっていたりしています。なので、少しは見返したいという気持ちがありました。このように様々な気持ちを持ちながら僕の人生で初の球技大会は開幕しました。

球技大会をざっくりとまとめてしまうと、本当に楽しかったです。確かに日本の高校の球技大会と比べると負けているところばかりだと思いました。でも、僕が見ていた限り、みんなとても楽しそうにひとつひとつの種目に臨んでいました。だから、これはこれでよかったなと思いました。なぜなら、やっぱり行事というものは楽しむことが一番です。日本のものに様々なことで負けていても一番重要な楽しむことでは同等だったと感じました。なので、今回の球技大会は成功だったと思います。実際、僕自身もとても楽しめました。僕の得意なサッカーでは三本も外しましたが二本は決めることができました。僕の中では全く納得がいきませんでしたが勝利には貢献できたので良かったです。その他のスポーツでもある程度はできましたが、チームメートとの協力があったからこそ勝利に結びつきました。最初はあまり話さず口数の少ないチームでしたが、スポーツを通すことでどんどん打ち解けました。そして四種目のスポーツで全勝して優勝することができました。まさかそんな結果になると思ってなかった嬉しかった反面、驚きがとても大きかったです。

僕は今回の球技大会を通してたくさんのことを学び、たくさんのことを再実感しました。例を一つ挙げるとしたらスポーツの素晴らしさです。スポーツは心を通じ合わせてくれます。今回の球技大会では普段は絶対に話さないような人と同じフィールドにたって勝利を目指して頑張ります。なので、自然と仲良くなります。僕は同じようなことをアメリカに引っ越してきて陸上を始めた頃に感じました。僕は英語がわからなくコミュニケーションがなかなかとれなくてと

ても困っていました。しかしスポーツを共にやっていると、周りの人は優しく接してくれて今でもいい関係を築いています。これもスポーツを通すことによって言葉の壁を破って、仲良くなりました。このようなことはなかなか普段、気付くことはできません。だからこそ、こういった機会で再確認できるのでこのような行事はとても重要なものだと思いました。

今後、今回の球技大会で得たことを活かせる場面があれば活かしていきたいと思います。そして、来年の球技大会でも優勝を目標にして頑張りたいです。スポーツとは人と人を繋げる素晴らしいものです。その素晴らしさを活かした行事こそが球技大会なんだということを学ぶことができた、とても大切な時間でした。

球技大会感想

高等部一年　小野元暉



先日、補習校での例年の行事、球技大会が行われた。その日の朝は雨天で、外でのサッカーは中止になってしまうかと心配したが幸い、昼ごろには青空が頭上を覆っていた。それはまるでこの球技大会のためにお天道様が顔を出してくれたようだった。

今年は高等部として初めて球技大会を迎え、過去と異なり、リーダーとしての立場を取らなければいけなかった。特に自分のグループは高2が一人もいなかったことからみんなを率いらなくてはいけないと感じていた。これは勝つことよりもみんなが楽しく過ごせるようにすることを意識することだと考えた。

できるだけみんなに均等に競技に参加するように上手ではない人にもパスを回したりした。これは自分なりの努力であったがやはり、運動が得意な人がボールを独占してしまった。また、勝負に夢中になり、パスを出すのを忘れてしまったことも何度かあり、振り返ってみると反省すべきポイントがたくさんある。

今年の球技大会は自分にとって良い経験になったと思う。自分なりにはチームをリードしようとしたが、まだそれなりの実力がないと痛感した。今回のミスを見直し、次は先輩たちのようにきちんと自分のグループ、そして球技大会を率いていきたいと思う。

最後の球技大会

高等部二年　グレイ希望

私にとって補習校最後の球技大会を終えた。最後の年の最初の行事だと思うと絶対に後悔のない楽しい球技大会にすることが私の目標になった。勝ち負けでなく、一番重要なのは、いつもあまり関われない他のクラスの人とチームワークを築き、友達になることだと思った。

小学校から卒業して中学校に入る皆は運動会にもう出れない事をとても残念がることが多い。私は小学校の頃、いつも徒競走では三位まであるスティカーがもらえず、毎年悔しい思いをした。リレーの選手に選ばれたことがなかった私は一度だけ補欠選手に選ばれたことが大喜びだった(誰も休まなかったが)。中高等部の球技大会は運動会とはまったく違うが、同じく楽しい思い出を作ることができる行事だと中一のとき気付いた。

今年の授業参観の日の球技大会練習は少し不安を抱えながら始まり、今年はグループリーダーだから皆をうまくまとめなければいけないと言う重要な責任の重さを感じた。お弁当を食べている時、無口な皆をどうやって楽しませるのか、どうすれば会話をうまく始められるのかとても悩んだ。本番までの一週間は不安と心配でいっぱいだった。しかし、私はそう言う思いだけには負けたくなかった。

球技大会の日、私は思い切って皆に話したり、試合では大声で応援したり、チャンスがあればチームの一人一人に声をかける努力をした。バスケットボールの試合では皆疲れていたのに二試合目にぬけたい人は一人もいなかった。感動した私は二試合目、サイドラインから皆の応援をした。最後のサッカーの試合は熱意の入ったバスケットボールの直後で皆とても疲れていた。それでも最後の笛が鳴るまで皆全力を尽くして頑張った。最初のバレーボールとドッジボールの試合は負けてしまったが、バスケットボールでは引き分けまで相手のチームを追い込み、最後のサーカーの試合は勝つことができた。2015年の球技大会のDチームは一緒に頑張る中でさらに強くなったと思う。私にとって最後の球技大会を一緒に過ごしてくれたDチームのことは忘れない。

これからは球技大会の審判の助けをしていた先輩達のようにできればボランティアをしたいと思う。これからの後輩達の活躍を楽しみにしている。


Start a Chain Reaction!